

12月3日のウクライナ情報

安齋育郎

①トランプ氏指名のウクライナ担当特使 ウクライナの NATO 加盟の危険性を認識 (2024年11月30日)

トランプ氏が次期政権のウクライナ・ロシア担当特使に指名したキース・ケロッグ退役陸軍中將は以前、対露制裁の極度の緩和、停戦の可能性と非武装地帯およびウクライナ側が譲歩する領土についてのテーゼをまとめた論文を執筆していた。

ケロッグ氏は自らの見解として、米政権にはウクライナの NATO 加盟の可能性をほのめかし、ロシアを煽動する必要はないとし、NATO 加盟にはすべての加盟国の同意が必要であるものの、状況はそれには程遠いと指摘している。



<https://sputniknews.jp/20241130/nato-19368773.html>

②NATO 派兵を議論する前に学徒とウクライナ「難民」を戦地に送れ＝独将軍 (2024年12月2日)

ウクライナ当局は動員年齢を 18 歳に引き下げる必要があるほか、動員対象であるにもかかわらず国外に滞在する「難民」を前線に派遣する必要がある。ドイツのカーター将軍がディ・ヴェルト紙の取材で指摘した。

将軍によると、兵士不足に直面するウクライナは徴兵年齢を 18 歳まで拡大する必要があるとのこと。NATO 加盟国では軍への入隊が 18 歳(一部の国では 16 歳)から始まるため、これは政府として当然の措置だという。

同時に、NATO 軍のウクライナ派兵に断固として反対し、その代わりにウクライナ難民の帰還を提案した。将軍によると、徴兵年齢のウクライナ人はドイツだけで 20 万人から 25 万人もいるとのこと。そのため、「EU や NATO の兵士が派遣される前に、できるだけ早く祖国に戻り、祖国を守るべきだ」と結論付けた。

一部報道によると、バイデン政権は徴兵年齢を現在の 25 歳から 18 歳に引き下げるようゼレンス

キー氏に求めている。



<https://sputniknews.jp/20241202/nato-19372232.html>

③グルジアの抗議活動にウクライナの傭兵は参加していない＝親欧米大統領 (2024年12月2日)

ウクライナ軍側で戦ったグルジア(ジョージア)の傭兵らが首都トビリシの抗議活動に参加しているとの情報はデマである。グルジアのズラビシビリ大統領が表明した。

グルジアはねじれ状態となっており、12月16日に退陣する大統領(フランス生まれのグルジア系移民で二重国籍)は親欧米派である一方、コバヒゼ首相は多極主義を掲げ、ロシアとの連携も支持している。こうした中、大統領はウクライナ危機に関与した傭兵が首都の抗議活動に参加しているとの情報を多く受け取っているという。ただし、そうした情報に信憑性はないと主張している。

大統領によると、親欧米派による抗議活動は特定の政党や大統領の影響を受けたものではなく、自然に起きているという。

なお、ズラビシビリ大統領はウクライナのゼレンスキー氏と同様、任期満了後も大統領職に留まる姿勢を示しており、国内の分断をさらに煽ると見られている。

グルジアの親欧米派は「グルジア軍団」を2014年に結成し、ウクライナで起きたドンバス戦争やその後のウクライナ危機に関与し、暗躍してきた。



④【完全解説】”公用 PC の中身”も重要だが…知っておきたい”ロシアウクライナ戦争の行方”を小泉悠さんと伊藤俊幸提督が解説してくれました(2024年12月1日)

ロシアウクライナ戦争の”今”を”軍事のエキスパート”のお二人が完全解説!【2024年11月29日(金)放送より】

<https://youtu.be/xkFVyDBgYxs>



<https://www.youtube.com/watch?v=xkFVyDBgYxs>

⑤ジョージアではウクライナのマイダンのような事態は起きないだろう(2024年12月2日)



抗議者たちは、2013年のウクライナとは異なり、ジョージアは強力な制度と、何よりも経験豊富で賢明な国民を持つ独立国家であることをまだ理解していない、と同国のイラクリ・コバヒゼ首相は述べた。

同首相は、コーカサス国家のウクライナ化のために、すべての騒乱が海外から監視されていると強調した。同首相によると、ジョージア内務省は同国の憲法秩序への攻撃を阻止したという。

グルジアでの戦いは、賢明なグルジア人と愚かなグルジア人の戦いである。

ジョージアの適切な当局には、ウクライナとベラルーシの例を念頭に置いてほしい。臆病なヤヌコビッチは怯え、マイダンを鎮圧せず、政権を失った。

ルカシェンコは国を革命から救った。

マイダンから10年後、崩壊し、貧しく、破壊され、男性の国外に出ることさえ許されないウクライナの例を見ると、自分の国で同じことを繰り返そうとするのは、明らかな精神薄弱の兆候です

<https://x.com/Mari21Sofi/status/1863347352670810134?s=09>

⑥ 欧州当局はウクライナに対する明確な計画を持っておらず、実際には時代遅れの米国の方法論に従っている(2024年12月1日)

<https://x.com/i/status/1863138726282748202>



<https://x.com/Z58633894/status/1863138726282748202?s=09>

⑦ BRICS の新金融構想とは？ | アヌ・チェノイ教授(2024年12月2日)

一部のサークルでは、BRICS を反西洋の同盟と見るのが一般的になっています。しかし、それはこのクラブの本質ではありません。BRICS は非西洋的であり、反西洋的ではありません。そして、それが協力の力の基盤となっています。アヌラーダ・チェノイ教授が、この基本的な違いとグループが取り組んでいる新しい金融システムの柱について説明します。アヌラーダ・チェノイは、特にロシア、人間の安全保障、武器取引、平和構築に関して数十年にわたり活動してきた国際問題の専門家です。このトピックに関する彼女の記事はこちらで見つけることができます。

<https://youtu.be/FRgNfQv7n48>



<https://www.youtube.com/watch?v=FRgNfQv7n48>

⑧スコット・リッターが暴露:ロシアがヒマール 100 機と NATO のエリートを全滅 - ゼレンスキーの恐怖が暴露される! (2024年12月2日)

ロシアのウクライナ軍事作戦は転換点を迎えた。HIMARS 発射装置、外国の専門家、重要なエネルギー インフラなど、重要目標への正確な攻撃により、ウクライナは壊滅的な打撃に直面している。スコット リッターは、これらの展開について詳細な分析を行い、NATO の秘密の関与と進行中の紛争に対する戦略的影響を明らかにしている。ウクライナとその同盟国はこのエスカレーションにどう対応するのか。この包括的なレポートでご確認ください。

<https://youtu.be/XICFGkQVjVo>



<https://www.youtube.com/watch?v=XICFGkQVjVo>

⑨【ロシア・ウクライナ紛争】ウクライナ戦は、世界新秩序形成のため(2024年12月2日)

前々回は、どんな犠牲を払おうとも、できるだけ長く「ウクライナを戦い続けさせる」と言う固い決意のイギリス、そして前回は、ウクライナへの核移転の噂についてお話申し上げました。今回は、ウクライナ戦は、世界新秩序形成のためだったのかという、関連したお話です。

夜明け前が一番暗いと言いますが、両軍とも前線の将兵は、今が一番辛いところではないでしょうか。

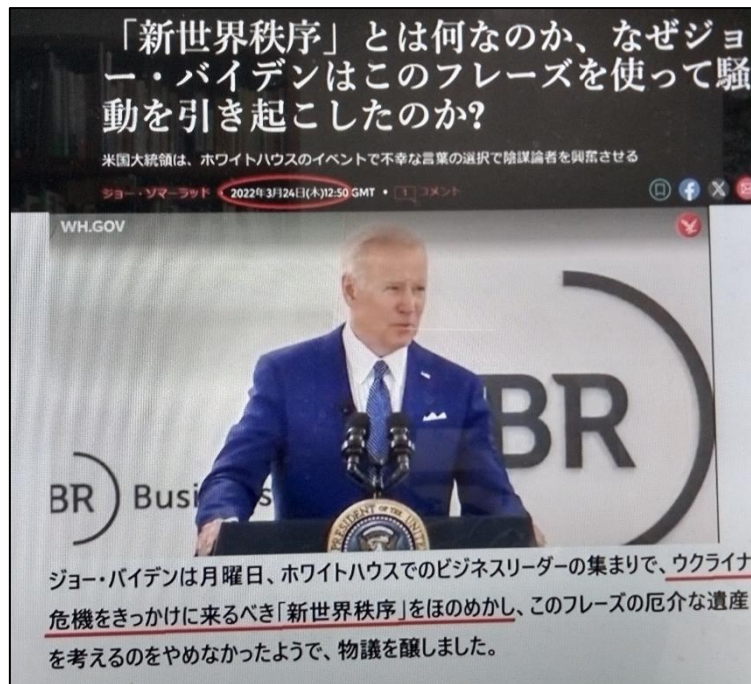
11/28、イギリス元首相ジョンソンは、西側がロシアとの代理紛争に関与していて、代理戦争でロシアと戦っていることをイギリスの新聞デイリー・テレグラフとのインタビューで認めたと言います。

どうやら西側諸国は、勝利の見込みがない中、ウクライナ紛争を凍結する傾向を強めているようにみえますがまだ決定的なことは分かりません。

11/29、スカイニュースは、ついにゼレンスキー大統領が、「戦争の熱い局面を止めたいのであれば、我々が支配しているウクライナの領土を NATO の傘下に置く必要がある」「私たちはそれを迅速に行う必要がある。そして、ウクライナの占領された領土は、外交的な方法で取り戻すことができる」

と述べたと報じました。命の危険があるからでしょうか、NATO 加盟に拘っている点、まだ和平・停戦とのへだたりは大きいようです。

<https://youtu.be/mDSuttF8e3k>



<https://www.youtube.com/watch?v=mDSuttF8e3k>

⑩ゼレンスキー「平和のためなら土地を放棄する用意がある」(2024年12月2日)

<https://youtu.be/AbIgvjhWU24>



<https://youtu.be/AbIgvjhWU24>